令和６年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立揖斐特別支援学校

教務部

自己評価

学校教育目標	・児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばし、地域社会に参加していく基礎的・基本的な力を身に付けることができるように、次のことをねらいとする。 ・児童生徒一人一人の障がいの状態や特性、発達段階等に応じたきめ細かい教育支援を行う。 ・仲間や地域と共に、たくましく明るく生きる力を育む。 ・児童生徒が主体的に社会参加するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を培う。

評価する領域・分野	「企画・庶務・学習計画・図書・情報」（教務部）
現状及びアンケートの結果分析等	・業務効率化の余地がある ・学校紹介の掲示物が古い ・ホームページの更新数が少ない
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・コンピューターネットワークを活用した業務効率化 ・学校紹介の掲示物の刷新 ・ホームページの更新数の増加
重点目標を達成するための校内組織体制	・分掌会、学部会、企画委員会、職員会議、主事会
目標達成に必要な具体的取組	・グループウェアの活用。 ・掲示物の刷新。学校紹介ビデオの作成 ・ホームページ更新の年間計画を作成
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒の様子、保護者の意見、外部者の意見、職員の意見
取組状況・実践内容等	・グループウェアの電子会議室やアンケート機能を活用することで、業務の効率化が見られた。 ・各学部紹介と交流について掲示物を刷新した。また、１２月実施の研修会で学校紹介ビデオを披露できた。 ・ホームページの更新数が昨年度より倍増した。また、閲覧数も増加した。

評価の視点	評価
①　業務の効率化ができたか。	A　Ⓑ　C　D
②　掲示物の刷新ができたか。	A　Ⓑ　C　D
③　ホームページの活性化ができたか。	A　Ⓑ　C　D
成果・課題	総合評価
○おおむね目標は達成できた。 ▲職員によって、グループウェアで使用する機能にばらつきがある。	A　Ⓑ　C　D
来年度に向けての改善方策案	・グループウェア機能について、「電子会議室」「回覧・レポート」「アンケート」「ダイレクトメッセージ」のみとする。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等 ・ホームページの内容が充実し見たくなるものになった。学校のイメージも明るくなったと思う。 ・課題・目標に対し成果が上がり良い。具体的な目標を立てることで評価が分かりやすくなる。

健康安全部

自己評価

評価する領域・分野	「保健管理・安全管理」（健康安全部）
現状及びアンケートの結果分析等	・「医療機関との連携」では、学校医と連携し児童生徒の健康管理や感染症予防等を保健だよりで発信していく。 ・「確実な緊急時対応」では、命を守る訓練等の取り組みを、保護者へホームページ等で発信していく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	①保護者や外部機関と連携をし、児童生徒の健康・安全管理に努める。 ②職員の危機管理意識の向上と学校環境の安全管理を進める。 ③危機管理体制を整備し、児童生徒の防災教育を進める。 ④児童生徒主体で安全な運動会（小中）・体育大会（高）の企画運営に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・健康安全部会・企画委員会・学部会・学校保健安全委員会 ・医療的ケア検討委員会・アレルギー対応委員会・運営委員会（運動会・体育大会）
目標の達成に必要な具体的取組	①アレルギーや発作対応の訓練とマニュアル改善を行い、周知を図る。 ②ヒヤリハット事例の共有を図る（電子会議室への積極的な入力の呼び掛け）。 ③企画委員会で提案し、専門家や各分掌と連携し、災害時に備える。 ④運動会、体育大会に分け、児童生徒会の取組や競技を見合う場を計画する。体調管理、熱中症防止に努める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒の健康状態、取組の様子・保護者の意見（アンケート結果） ・職員の意見（アンケート結果）・学校医や防災専門家、地域の意見
取組状況・実践内容等	①関係職員で訓練を行い、マニュアルの確認や改善を行った。 ②安全点検や欠食届などの電子化を行った。 ③企画委員会で対応策の検討を実施。外部講師による防災研修会を実施。 ④運動会、体育大会に分け、児童生徒会の取組や競技を見合う場を取り入れた。

評価の視点	評価
①保護者や外部機関と連携し、児童生徒の健康・安全管理ができたか。	A (B) C D
②危機管理意識の向上と学校環境の安全管理ができたか。	A (B) C D
③危機管理体制の整備と防災教育を進めることができたか。	A (B) C D
④児童生徒主体で安全な運動会・体育大会の運営ができたか。	A (B) C D

成果・課題	総合評価
○グループでアレルギー対応の訓練を実施し、対応マニュアルの改善ができた。 ▲全校への周知が必要。 ②危機管理意識の向上・学校環境の安全管理 ○安全点検や欠食届などの電子化を進めることができた。 ▲ヒヤリハット 19 件、アクシデント 19 件（医療的ケアアクシデント含む） ③危機管理体制の整備・防災教育 ○企画委員会で検討し、各分掌等で分担する流れができつつある。 ▲継続が課題。 ④運動会・体育大会の安全な企画運営 ○各学部工夫を凝らし、児童生徒会の活躍の場や互いに応援し合う場ができた。 ▲運営委員会や学部会での提案等の日程を調整し、計画的に進める。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・アレルギー対応の訓練を心肺蘇生法訓練に位置付ける。 ・ヒヤリハット事例は電子会議室に出来事を簡素に載せる。 ・様々な時間や場所での対応ができるように月一回程度の訓練を実施する。 ・危機管理マニュアルの見直しや災害時への備えを、各分掌と分担して進める。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等
・避難訓練はどの程度実施しているか。また、訓練は抜き打ちで実施すると効果がある。 ・訓練を続けることが大切である。 ・ヒヤリハット事例の共有は、安全管理面で大切である。

生活支援部

自己評価

評価する領域・分野	「生徒指導・特別活動」生活支援部
現状及びアンケートの結果分析等	・いじめ防止対策検討委員会の外部委員の方から、仲間のよさだけでなく、自分のよいところを見付けることはよいこと、と御意見をいただいた。 ・自ら安全に生活する意識がもてるような取組の工夫をしていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	⑴仲間のよさだけでなく、自分自身のよい面に関しても見つめるよい機会となるような取組を行う。 ⑵交通安全や情報モラルに関しての教育や啓発の情報発信をする。
重点目標を達成するための校内組織体制	・生活支援部、専門性向上推進部、相談支援部、各部会 ・校内ケース会議、連携支援会議、生徒支援委員会 ・いじめ防止等対策検討委員会 ・ＭＳリーダーズ（高等部生徒）
目標の達成に必要な具体的取組	⑴いろいろな考え方、よさを感じられるような心の醸成を促す活動を計画し、実施する。 ⑵教職員研修を含め、継続的な取組や実施方法、情報提供の工夫をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒からの感想や意見、参加態度等 ・保護者等からの意見 ・学校運営協議会委員をはじめとする外部の方からの評価
取組状況・実践内容等	⑴　全校でよいこと見付けを実施した。 ⑵　学年やクラスごとでの交通安全教育、交通安全運動啓発ポスターの掲示を行った。情報モラルに関しては、外部講師の講話や学年での学習を行った。

評価の視点	評価
①自分のよいところに気付ける、仲間のよさを認めたり思いやったりする様子が見られたか。	A (B) C D
②児童生徒が自ら取り組んだ様子、教職員が継続的に取り組んだ経過、教職員に対して分かりやすく情報提供することができたか。	A (B) C D
成果・課題	**総合評価**
○▲よいこと見付けでは、少しずつではあるが、自分のよさを見付けられる姿が見られた。ただし、自己肯定感、自己有用感を育む必要がある児童生徒も多い。 ○交通安全の啓発活動方法を、自分たちから発案できた。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・いろいろな考え方、よさを感じられるような心の醸成を促せる取組を行う。 ・ＳＯＳの出し方に関する教育を実施する。 ・情報モラルに関する教育を、年間を通して、定期的に実施する。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等 ・「よいことみつけ」自己肯定感を育む活動として有効である。 ・継続実施をするとよい。

キャリア支援部

自己評価

評価する領域・分野	「キャリア教育」**「関係機関との連携」「情報提供」**（キャリア支援部）
現状及びアンケートの結果分析等	・学校内でのキャリア教育（進路指導）の系統性を図ることが必要である。 ・今後も、障がい福祉の法律や制度の変化に応じて、保護者にタイムリーな情報や学校の取組等を提供や紹介の有効的な方法を工夫していく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	①職員の進路意識アップデート（職員研修の実施、最新進路情報の提供） ②各学部においてキャリア教育について、組織的・系統的に取り組む。 ③保護者や地域（外部）への情報提供及び発信
重点目標を達成するための校内組織体制	・キャリア支援部（学校全体の企画・運営） ・他分掌との連携（教務部、専門性向上推進部） ・小・中・高等部会（一人一人やライフステージ応じたキャリア教育）
目標の達成に必要な具体的取組	①外部講師による職員研修の充実。 ②学部の枠を越えた作業学習や校内作業実習の参観の実施。 ③ハローワークや障がい者就業・生活支援センター等の関係機関と情報共有し、進路選択に活用。また進路だよりと学校ＨＰを活用し、情報を発信。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・保護者からの意見や感想 ・学校運営協議会の意見、感想
取組状況・実践内容等	① 外部講師を活用し、進路研修会や就労支援セミナーを実施。（高等部生徒・教職員・保護者対象） ② 学校 HP や進路だよりを活用し保護者や地域社会へ情報発信の実施。 ③ 担任の負担が減るように、実習全般の見直し。

評価の視点	評価
①適性やニーズに即した進路支援体制の構築、関係機関との連携ができたか。	A Ⓑ C D
②職員へキャリア教育や進路についての研修を実施することができたか。	A Ⓑ C D
③児童生徒や保護者に分かりやすく進路情報や取組を提供することができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
・高等部３年生８名は、希望に沿った進路先へ進む予定である。次の進路先や支援機関への引継ぎを今後しっかり行う。保護者や本人の希望も大事であるが、実習先とのミスマッチもあり、実習の辞退や欠勤で実習先に迷惑をかけた。	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	① 学部ごとで保護者のニーズを一度確認し、状況によっては、小中学部と高等部でそれぞれ進路だよりを作成する。（多くの保護者に情報発信） ② 担任及び学年団と連携し、本人の成長と課題が見つかる実習の実現。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

・関係機関との連携については、評価Aがつくように努力してほしい。 ・進路だよりは様々な角度からの情報発信になっている。 ・小学部や中学部向けの便りがあるとありがたい。

専門性向上推進部

自己評価

評価する領域・分野	「研究研修」「相談支援（教育相談・地域支援）」（専門性向上推進部）
現状及びアンケートの結果分析等	・保護者には、教師が熱心に授業支援や教材研究を行っていることを児童生徒の様子から感じ取ってもらっている。実態に即した授業内容は、更に学習内容の系統性や個への授業内容、個別最適な学びについて実践を深める必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	（1）特別支援教育の専門性の向上を図るため、全校研究を主軸におき研究に努める。 （2）特別支援教育の専門性の向上を図るための研修の方策を検討し、実践する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・専門性向上推進部 ・研究推進委員会及び各研究グループ ・各部会
目標の達成に必要な具体的取組	（1）全校研究を中心に、日々の授業改善や授業公開を通して実践力・指導力の向上を図る。 （2）職員研修のニーズを把握し、計画、実践する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・研究授業および各研究グループでの研究授業における事後検討会での相互評価 ・授業や関わり方等、児童生徒への還元
取組状況・実践内容等	・全校研究テーマに基づきながら、「授業力の向上」をめざし、研究授業（事前、事後研を含め）を行い、９月、１２月の２回公開授業研究会を行うことができた。 ・外部の講師、職員に授業公開をしたことで、自信をもつことができる点、改善点や課題等がより明確になった。 ・１２月の公開授業研究会では、教材教具展を開催することができた。

評価の視点	評価
①全校研究、公開授業研究会等を通して、授業力を向上させて、児童生徒に還元することができたか。	A (B) C D
②職員のニーズに合った研修を行うことができたか。	A (B) C D
成果・課題	**総合評価**
○個々の児童生徒に向けての丁寧な指導を行っているという評価をいただき、指導力の向上という目標はひとまず達成されている。 ▲今年度を踏まえ、さらに指導力の向上、よりよい授業づくりをしていけるように検討、実践をしていく。 ▲職員研修についてニーズを把握しながらよりよい研修を計画、実施していく。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・働き方改革と共存する効果的な研修について計画、実施する。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等
・公開授業研究会が開かれ、教職員の自己研鑽が図られている。
・情報共有の在り方を明確にするとよい。
・今年度の取組や引継ぎ事項を次年度や中長期的に指導に生かせるとよい。

相談支援部

自己評価

評価する領域・分野	「相談支援（教育相談・地域支援）」
現状及びアンケートの結果分析等	・児童生徒や保護者に対して寄り添い、きめ細かく相談を行っていることが保護者から支持されている。今後も、組織的に対応をしていく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	（1）　学校生活や家庭生活での児童生徒、教員や保護者の困りごとに対して、相談しやすい体制を作るとともに、校内の各部署や外部関係機関と連携を図り組織で対応する。（校内支援） （2）揖斐川町・池田町・大野町の幼・保育園、小・中学校等からの相談を通して、障がいの状態の把握、ニーズに応じた支援方法や合理的配慮の提供をし、地域における特別支援教育センターとしての機能の充実を図る（校外支援）
重点目標を達成するための校内組織体制	・各部会（各部に校内コーディネーターの配置） ・各分掌との連携（校内ケース会議、連携支援会議、いじめ防止等対策検討委員会、会議における職員の時間割調整、研修会等） ・スクールカウンセラー等の活用 ・コーディネーター会（仮想事例検討会、個別の教育支援計画の確認等）
目標の達成に必要な具体的取組	（1）日常生活の様子の情報交換や教育相談週間の情報収集により、「困りごと」解決に向けた相談支援体制の充実と、迅速に校内の各部署、外部関係機関と情報共有や連携を図る。 （2）校外支援の取組をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・スクールカウンセラーの活用やケース会議・連携支援会議後の児童生徒の変化 ・校外支援の状況 ・コーディネーター会の運営状況
取組状況・実践内容等	・年間３回の教育相談週間、年間５回の心のアンケートの実施。必要に応じて、各学部コーディネーターが参加者・時間を調整してケース会議等を開催した。またスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの専門家にも相談をつなげた。 ・３町の幼・保育園、小・中学校へ訪問支援を行った。 ・地域の教育・療育機関等の職員や保護者に向けた研修会を実施した。

評価の視点	評価
①関係分掌と連携したケース会議・連携支援会議の開催、スクールカウンセラー等の専門家との連携を通して、児童生徒や保護者に寄り添った相談・支援をすることができたか。	A (B) C D
②地域の教育・療育機関等の職員のニーズにあった研修会・訪問支援を行うことができたか。	A (B) C D
成果・課題	**総合評価**
○管理職、関係分掌、学部コーディネーター、学級、専門家が連携し、組織的に児童生徒や保護者に対して寄り添った相談・支援を行うことができた。 ▲地域のニーズに応じたセンター的機能を充実させる中で、その取組について当校保護者に周知を図る必要がある。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	地域の教育や療育機関などに働く職員のニーズに応じて、横のつながりを形成できる研修会を開催し、地域における特別支援教育を推進する。また、その取組についてはホームページを通じて保護者に知らせる。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等 ・多様な事案が多いなか、他職種との連携が図られている。継続的な連携をお願いしたい。

渉外・広報部

自己評価

評価する領域・分野	「保護者との連携・広報」（渉外・広報部）
現状及びアンケートの結果分析等	・「進路情報提供」については、92.3%でよい評価であった。 ・専門委員会の活動回数は１～３回で「ちょうどいい」の評価が多かった。 ・アンケートをもとにＰＴＡ研修会を実施したが、出席率が低かった。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	①　役員会や専門委員会等の内容や方法を見直し、有意義な活動の実施 ②　保護者・関係諸機関と連携し、教育環境の改善や充実、保護者の教養の向上を図る
重点目標を達成するための校内組織体制	・渉外・広報部、健康安全部（防災関係）、キャリア支援部（研修会関係） ・ＰＴＡ役員会（ＰＴＡ活動の企画、運営） ・ＰＴＡ専門委員会（広報、研修、福利厚生各委員会活動） ・同窓会支援担当（同窓生への連絡、同窓会活動のサポート） ・理解啓発担当(特別支援教育への理解と啓発)
目標の達成に必要な具体的取組	①　座席の配置、議題の提案方法を工夫し、積極的に話し合える役員会や専門委員会を実施し、主体的なＰＴＡ活動を行う。 ②　保護者同士が「つながる」活動をするために、委員会活動の中で交流し合える場を提供したり、参集せずに「先輩保護者と語る会」を実施したりする。 ③　ＰＴＡ研修会では「施設見学」を実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・保護者のアンケート等による意見、感想 ・地域からの意見、感想
取組状況・実践内容等	執行部：わいわいカフェ「親子お楽しみ会」、推奨服リサイクル、サプライズプレゼント企画の実施 広報委員会：会報２回、ミニ会報１回発行 研修委員会：施設見学会、先輩保護者と語る会（１月紙面にて実施） 福利厚生委員会：ベルマーク集計４回実施。23,410 点（Ｒ６．１２月現在） 預金残高 450,822 円（購入品の検討中） 同窓会支援活動：「二十歳を祝う会」の実施 いきいきのびのび展：３回実施、校外作品展：５回出品

評価の視点	評価
①保護者・関係諸機関と連携し、教育環境の改善や充実、保護者の教養の向上を図ることができたか。	A　Ⓑ　C　D
②役員会や専門委員会等の内容や方法を見直し、有意義な活動ができるように工夫できたか。	A　Ⓑ　C　D
③児童生徒作品展やＰＴＡ会報を通して、保護者や関係諸機関へ発信し、当校の教育活動への理解を広めることができたか。	Ⓐ　B　C　D
成果・課題	総合評価

○学校ホームページや配信アプリ等で、ＰＴＡ行事への参加を促したり、学校での日常の様子を積極的に配信したりすることで、保護者の理解を得るとともに学校教育に意欲的に参加してもらう体制づくりに着手することができた。 ○作品展やＰＴＡ会報等により当校の活動を地域の多くの方々に知っていただき、心温まる応援の言葉や高評価をいただいた。 ○広報委員の活動は年４回実施し、内１回は委員活動に参加できるように年度当初にアンケートをとって分担したため、参加率が高かった。 ○５年ぶりに施設見学会を実施することができ、２０名以上の保護者の方に参加いただいた。就労や今後の進路に向けて、役立つ情報が得られた。 ○生徒によるベルマーク委員と協力することで作業を分担し、効率よく集計ができた。 ▲ＰＴＡ行事や委員会活動への参加について、個人差が大きい。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ
来年度に向けての改善方策案	・対面でのＰＴＡ総会の実施、任意加入に伴うＰＴＡ活動の見直し、専門委員会の再編 ・誰もが気軽に参加できるＰＴＡ活動の推進、積極的な情報発信 ・同窓会の廃止と今後の方向性の決定

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等 ・作品展等の外部への情報発信の高評価は自信につながるので、継続的な発信を。 ・ＰＴＡ活動は昨今難しくなっていていると聞きます。成功事例を参考に活動するとよい。 ・ＰＴＡ活動は『つながり』大切である。新しいつながりを広げていく学校を望む。特に地域とのつながりが増えること期待する。

小学部

自己評価

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動（小学部）」
現状及びアンケートの結果分析等	・学部全体での活動や校外学習等の再開に伴い、個々の実態に応じた指導計画を作成し、十分に話し合いながら授業実践を行った。 ・連絡帳でのやり取りや懇談等での情報発信を行い、保護者との共通理解のもと連携を図った。迅速で誠実な対応を心掛け、概ね高評価をいただいている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・個々の障がいの状態や特性および発達段階等を把握し、学年や学部の系統性を踏まえたうえで、卒業後を見据えた学習活動を計画・実践する。 ・児童が「いきいき　のびのび　かがやく」ために、研究・研修・情報交流等を有効に活用してよりよい授業をつくる。
重点目標を達成するための校内組織体制	些細な事柄でも共通理解を図る組織体制づくり ・意見を出しやすい学部会や研究会、お互いに相談しやすい職員集団づくり ・状況に応じたケース会、支援会議の招集
目標の達成に必要な具体的取組	・学年や学部の系統的な学習内容について理解を深め、個々の実態や発達段階を考慮して、卒業後を見据えた学習活動を計画・実践する。 ・自己研修や校内研修等に努め、教員のスキルアップを図る。普段から互いの授業や指導を見合って改善し、さらなる指導力の向上を目指す。 ・懇談会や通信等で、児童の様子や将来の姿、今取り組むべきことなどについて、保護者へ具体的でわかりやすい情報発信を丁寧に行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童の発言や様子 ・職員の意見、反省や評価

	・保護者からの意見や感想
取組状況・実践内容等	・研究を通して、生活単元学習を核とした授業改善や教材教具の工夫を継続的に行い、互いに見合い、協議する場を設けて指導力の向上を図った。 ・個の実態や発達段階に応じた系統的な指導計画を作成し、グループ内で十分に話し合いながら、日々の授業実践を行った。 ・連絡帳でのやり取りや通信、懇談等で保護者への積極的な情報発信を行うとともに、職員間で必要な情報共有を密に行い、組織で動く体制を整えた。

評価の視点	評価
・個々の実態に応じた課題や指導方法などについて、年間の見通しをもち、関係職員間で十分に話し合いながら進めることができたか。	A Ⓑ C D
・教科の系統性や児童の特性や発達段階を考慮した学習活動を計画・実践することができたか。	A Ⓑ C D
・連絡帳や懇談、文書等で、保護者へ十分な情報発信を行うことができたか。	A Ⓑ C D

成果・課題	総合評価
○学年グループで児童の実態を共有し、自発的、主体的な姿につながる学習を計画・実践することができた。 ○一人一人の実態をもとに課題を明確にし、個に応じた指導の工夫や教材教具の準備ができた。 ○校庭遊具を積極的に活用し、心身ともに健康な体づくりに励むとともに、遊びを通じて異学年間の交流を深めることができた。 ○保護者との連携を密にし、相談や気になることがあれば迅速に対応し、信頼関係を築くことができた。 ○日頃から児童の姿をもとに情報を共有することを心掛け、学部職員間で共通理解を図って指導・支援にあたることができた。 ▲必要に応じて教材教具を効率的に使用したり共有したりすることができるよう、保管場所や配置について見直し、管理の徹底が必要である。 ▲学年や発達段階に応じた系統的な学習内容や指導方法、校外学習の実施についてさらに検討する。	A Ⓑ C D

来年度に向けての改善方策案	・教科書改訂に沿った年間指導計画の見直し ・教材教具の管理場所の確保、備品等の整理整頓 ・目的や学年・他学部との関連等を考慮した系統的な学習及び校外学習の計画・実施、柔軟な人員配置 ・校内の学習・生活環境を踏まえた危機管理体制の強化

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等
・児童一人一人の特性に合わせた教材教具のが良い。 ・指導計画作成にあたり、連絡帳や懇談で幅広く聞き取り共通理解がされ、共通の思いで指導されている。

中学部

自己評価

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動（中学部）」
現状及びアンケートの結果分析等	・生徒との信頼関係及び保護者との連携、よりよい関係性を構築して進められるように努めている。 ・生徒一人一人の個別の指導計画に基づき、各科目・領域の短期目標に対する適切な手立てを作成し、授業内容が定着できるように努めている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	（1）日常生活でのコミュニケーション能力や人間関係形成能力の育成 ・学校行事や部行事の中で自己理解や周囲との関係理解を深める取組方法を工夫する。 ・社会自立につながる必要な知識・技能の習得を図る。 （2）個々の実態に応じた学びの手立ての作成と学習意欲の向上を目指すための授業改善の工夫 ・自立活動、生活単元学習等との横断的な取組を踏まえた指導計画の立案および実施する。 ・ＩＣＴ機器やデジタル教材等を有効に活用し、教育的ニーズに応じて自ら学びを引き出す授業を設定する。 （3）健康管理指導を通した疾病予防習慣の育成及び健康維持の促進 ・検温や手洗い、手指消毒など教師が具体的に手本を見せながらわかりやすく指導し、感染症対策として実情に合った行動を習慣化させる。 ・一日の身体のリズムを整えるための健全な体力の増進及び食育の推進を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	・異なる障がい種との連携（知的学級、重複学級、準ずる学級との共通理解） ・学部会（生徒の情報交換、授業、部行事に向けての共通理解） ・分掌会（学校行事等の計画立案）
目標の達成に必要な具体的取組	（1）作業学習・生活単元学習・自立活動において、生徒の障がいの実態等を踏まえて、修正や見直しを行いながらその生徒にとっての「できること」を積み重ねていき、自己肯定感を高めていく。 （2）教科指導による個別最適な学びと協働的な学びの研究を進めていく。また、ＩＣＴ機器やデジタル教材を有効に活用した授業を進めていく。 （3）委員会活動、部集会、授業等を通して生徒の健康管理を指導していく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・特別活動、部行事、学校行事等への参加態度【キャリアパスポート】 ・生徒から学習活動の感想や意見等【各教科・領域における振り返り】 ・保護者からの感想・意見等【授業参観、保護者懇談、学校評価アンケート】 ・関係職員による反省・評価【部会での反省】 ・学校運営協議会委員からの意見【学校運営協議会、学校評価アンケート】
取組状況・実践内容等	・生徒の実態把握を行い、授業の進め方の修正や見直し、検討を行った。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から研究に取り組み、授業改善を行った。 ・健康維持を保つため、「食育」の授業や「朝運動」の継続を行った。 ・行事や学習活動をホームページに掲載し、保護者や校外の方へ積極的な情報発信を行った。

評価の視点	評価
（1）・学校行事や部行事の中で自己理解や周囲との関係理解を深める取組方法を工夫できたか。	A (B) C D

・社会自立につながる必要な知識・技能の習得を図ることができたか。 （2）・自立活動、生活単元学習等との横断的な取組を踏まえた指導計画の立案および実施することができたか。 ・ＩＣＴ機器やデジタル教材等を有効に活用し、教育的ニーズに応じて自ら学びを引き出す授業を設定する。 （3）・一日の身体のリズムを整えるための健全な体力の増進及び食育の推進を図ることができたか。	A (B) C D A (B) C D
○成果・△課題【(全)…学部全体、(知)…知的、(準)…準ずる、（重）…重複】	総合評価
○（全）運動会や学習発表会等の行事では、主担当が中心となり、生徒一人一人の活躍の場を作れるよう全職員で話し合いをもち取り組むことができた。 ○（知）チャレンジ（国語・数学）を研究で取り組み、大学教授のアドバイスや、職員間で授業を見合うことで改善ができた。 ○（知）作業学習では、毎回成果を発表する場面を設けたり、目標や出来高を視覚化し生徒に分かりやすく伝えたりする工夫ができた。 ○（準）他学部の教師にも教科を担当していただき、生徒の学力を伸ばすことができた。進路について分掌担当、担任と協力して進めることができた。 ○（重）医ケア対象の生活介護事業所に職場見学へ看護師同伴で参加できた。保護者も施設見学として、現地集合で一緒に見学でき進路研修もできた。 ○（知）保護者の思いに寄り添いながら、修学旅行を安全に楽しく実施できた。 △（全）総合学習は、川・山・クラフトの３つの活動を外部講師で行っているが、活動内容や時期、集団人数、回数等を見直していく。 △（知）生活単元学習の年間計画や、来年度の生徒の実態の変化に合わせた作業学習の内容などを検討していく。 △（準）免許外が２教科あり、人事について配慮が必要。（職員の負担減のため） △（全）校外学習や職場見学は、生徒の実態と３年間を見通して計画していく。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・学級費の年間計画を立て、それに沿って計画的に使用していく。 ・仕事の平準化ができているか定期的に仕事量や授業数等を見直し、働き方改革を進めていく。 ・校外学習、職場見学が実態に合っているか学年の系統性があるかを更に検討していく。 ・ＩＣＴ機器やデジタル教材を使用した授業を行っているが、生徒の実態に即した使用になっているか等中身の検討を行っていく。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等 ・安定した指導がなされるように、業務の標準化に取り組むとよい。 ・できることの積み重ねにより自己肯定感を高め、自分の作業成果を視覚化することで自信が深まる。 ・行事の時短化が少し寂しく感じる。 ・中学部から始まる作業学習だが、生徒も保護者も早い段階で高等部の作業学習が見学できるとよい。

高等部

自己評価

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動（高等部）」
現状及びアンケートの結果分析等	・生徒は教師との信頼関係のもと、学校教育目標の達成に向けて自主的、主体的に学習活動に取り組めている。 ・学校は生徒に愛情をもって熱心に対応し、個に応じた細やかな授業内容の支援をしており、保護者は肯定的にとらえている。 ・保護者との連携や意思の疎通等が図られ、効果的な支援につながっている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・様々な活動を通して、主体的に学習に取り組む態度や、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育む。 ・健康な身体と豊かな心を育み、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・将来の職業生活や社会自立に向けての基盤となる資質・能力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学部内での共通理解および学年、校務分掌、学部間の連携を図る。 ・外部機関と連携する校内組織の充実を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	・生徒が学校生活の場で自主的かつ主体的に取り組む姿勢や力を育むことができる学部経営、学年経営、学級経営を行う。 ・生徒一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を把握し、適切な指導計画のもと、卒業後の進路の達成に向けた学習活動（教科指導、作業学習等）を実践する。 ・社会自立や社会参加に向けた安全教育の推進（主権者教育、交通安全、地域社会活動、命を守る訓練）に取り組む。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・職員の意見、反省 ・生徒及び保護者のアンケート結果及び意見 ・現場実習及び販売活動先担当者からの意見及び感想 ・学校運営協議員の意見
取組状況・実践内容等	・日課や授業時間の見直しと確認、共通理解。 ・修学旅行の行先の見直しを行い、全職員で意見交換を行った。

評価の視点	評価
（1）生徒が自主的かつ主体的に取り組める各教科における学習活動が展開できたか。	A Ⓑ C D
（2）生徒一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を把握し、進路実現に向けた適切な支援をするための取組みが適切な指導計画の下で実践できたか。	A Ⓑ C D
（3）生徒の社会自立や社会参加に向けた安全教育に取り組めたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
○生徒にとって必要な学びの確認ができた。 ▲作業学習、各種実習の評価や様子等を学部内で共通理解し、学部全体で指導に当たれるようにしたい。	A Ⓑ C D

来年度に向けての改善方策案	・作業学習、進路学習における内容や体制の整理と見直し。 ・生徒の意見を取り入れた生徒が主体となる活動の場を増やす。

学校関係者評価　（令和７年２月３日実施）

意見・要望・評価等 ・生徒が学級経営を行うことは、自主的・主体的な姿勢と力を培うことができる。卒業後の進路達成に向けた教科指導や作業学習を展開できるとよい。 ・卒業後の生活が本人や家族にとって一番重要である。これからも学部や学校全体で指導いただきたい。